

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101554		
法人名	社会福祉法人 清潮会		
事業所名	グループホーム しおさい	ユニット名	
所在地	長崎県西海市崎戸町蛸ノ浦郷17番26号		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成24年12月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで海の見える場所にあり、景色や環境は懐かしさがある。オープンキッチンとなっている台所からの調理の匂いに誘われるかの様に、利用者様のほとんどは広いスペースのリビングに自然と集い、職員との会話も弾む。家庭的な雰囲気の中で、明るく楽しくゆつくりとをモットーに、一人一人の出来る事をして頂きながら、又、利用者様・職員お互い助け合い、ご家族の協力を得ながら、その人らしい生活が営める様、サービス提供を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームしおさい”がある西海市崎戸町は、地元で生まれ育った方々が多く暮らしており、助け合いの関係も残っている。「地域を支え、地域に支えられる関係」を作りたいと言うホームの理念が、日々の生活の中で実践されている。行きつけの店などに行くと、馴染みの方との楽しい会話が始まり、地元をドライブしていると地域の方が海岸に夕涼みに出ておられ、炭坑時代の同級生などと楽しいひと時を過ごす事ができている。季節に応じた花見も楽しまれ、「綺麗かね」と喜んで下さっている。ホームの設計をして下さった建築士の方が、今は絵手紙の先生をして下さり、皆さんと一緒に絵手紙を書き、家族に送られている。家族の方も色々な協力をして下さり、野菜や魚などを差し入れて下さったり、趣味がガーデニングの家族の方が季節の花の苗を分けて下さっている。玄関のプランターに苗を植えて下さり、水のやり方までアドバイスして下さる関係ができている。ご自分の意思で入居された方も多く、ホームでは穏やかな暮らしが続けられている。優しい職員ばかりで、ご利用者との会話を大切にされており、今後も真意を汲み取る努力をしていきたいと考えている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念の他、地域密着サービスとしての理念は、法人内2施設内のグループホームで共有している。事業所独自では、職員理念を掲げ、全職員で共有・実践に繋げている。	理念の実現のため、より具体的な指針としてホーム独自の目標や職員目標を掲げている。次長からの指導もあり、常にご利用者本位の視点で会議が行われ、ご利用者との信頼関係を大切にしている。遠慮がちで自ら要望を言われない方もおられ、質問形式の会話を心掛け、思いを引き出す努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員全員が積極的に挨拶等に努めている。又、地域の行事に利用者と共に参加し、地元の人々との交流に努めている。	地域の広報誌も配られており、敬老会では演芸を楽しまれた。地域の花火大会では宮司の方が“しおさい”専用の席を準備して下さっている。おくんちの獅子舞も毎年ホームに来て下さり、皆さんで楽しまれたり、地域の盆踊りでは、ご利用者も一緒に踊りに参加された。自治会長の紹介で消防団との連携を深める事もできた。	ホームの文化祭では地域の方が“よさこい踊り”を披露して下さい、楽しいひと時を過ごす事ができた。今後も引き続き、ホームに地域の方が来て頂けるよう、ボランティアの団体や子供会にも働きかけをしていくと共に、運営推進会議でも検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の他事業所と協働し(西海市認知症ケア研究会)、出来る限り地域に役立つ事が出来る様、努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題は主に行事報告と案内。職員の研修受講の報告。利用者の現状等をお伝えしている。又、昨年度より空室が続いており、開催ごとに空き状況も報告し、参加者からの質問も多く頂く。更に今年度は法人全体で「笑いヨガ」に取り組み、それについてのご意見を頂き、サービス向上に努めている。	ご利用者、家族、自治会長、西海市課長、協力医等に参加頂いている。家族の方が参加しやすいように、家族代表を2人ですて頂き、交代で出席して頂いている。毎回、ご利用者個々の生活や介護状況、行事・研修報告を行い、参加者の方から感想などを頂いている。山崎先生も感染症情報などを教えて下さっている。	地域連携を深めていくために、地域包括の方(権利擁護の勉強会)や学校の先生、消防団、絵手紙の先生(ホームの設計士)など、しおさいの応援団の方々をゲストとして来て頂く方法も検討していきたいと考えており、欠席者にも議事録を渡す予定にしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議には、市の担当者が必ず出席頂いている。文書や電話のやり取りだけではなく、お互い顔を合わせての情報交換は貴重なものであり、協力関係作りに努めている。	市の担当者とは電話等で相談に応じて頂き、運営推進会議でも情報を頂いている。申請や手続きは支所に出向き、市の担当者と情報交換している。法人本部は長崎市にあり、法人本部と西海市との連携もできている。家族の状況に応じて、地域包括の方から権利擁護事業(成年後見制度)の説明を丁寧にして頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止委員会」が設置されており、法人内の研修で理解出来ている。特に言葉での拘束にも意識が高まり、日頃からの職員相互で拘束となっていないか話し合っている。	3年前に委員会で作られた禁句集を活用すると共に、挨拶や言葉遣いも含めて、日々留意する行動などを日めくりカレンダーにして、毎日振り返りを行っている。汚物等の不快な臭いも身体拘束になると考え“臭いゼロ作戦”も継続しており、家族にも意見を頂いている。感情不安定なご利用者もおられず、安心して生活されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人で「身体拘束廃止委員会」を設けており、その中に虐待防止も含まれる。全職員が研修を受け、その都度研修報告書を提出し、常に注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	4月に成年後見制度について、管理者が担当窓口へ伺い、説明を受けた。又、その際の資料を職員へ回覧し、共通理解に努めた。現在生保受給が決定したばかりの利用者様がおられ、今後権利擁護に関して、関係者とよく話し合いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する際、家族に重要事項説明を十分に行うと共に、玄関にも掲示している。不安・疑問等ある場合には、その都度電話や面会時等いつでも説明し、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方との日頃からの何気ない会話の中からお気持ちを伺ったり、ご家族も同様に、来所時の何気ない会話の中からお気持ちを伝える努力をしている。気兼ねなく話して頂ける様、雰囲気作りを努めている。又、面会簿に意見欄を作り、色々な意見が反映出来る様、努めている。	面会時には、家族と職員が気付きや要望等を伺い、お互いに意見交換ができる関係ができています。“臭いゼロ作戦”に対しても、家族からホータルイトの臭い対策の意見を頂き、翌日から業務に活かすようにした。クリスマス会の時などは家族が集う機会にもなっており、家族交流も行われている。	職員間ではカンファレンスノート等を活用し、情報共有するようにしているが、家族の方への伝達漏れや重複して伝える事が時にあるとの事。今後も原因を把握していくと共に、記録の残し方や書式も含めて、職員全員で検討していく予定である。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日のミーティングの折、職員1人1人の意見や提案を聞いて反映させている。	職員から面会簿の記入の仕方(個人情報管理のあり方)の意見があがり、面会簿(1枚のカード式)の改善が行われた。意見欄を設けた事で“一言メッセージ”も増えている。“あおぞら昼食会”の方法、委員会活動も含めて、職員の意見は日々の業務改善に活かされており、今後も職員の意見を集約する工夫を続けていく予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、職員個々の努力や目標・実績を把握して、やりがい等各自が向上心を持って働ける環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は極力受講する様に配慮している。職員それぞれの段階に応じて研修を受講している。法人内では各委員会が主催する研修会があり、開催日を分けて全職員が参加し、共有出来る工夫をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西海市内のグループホームで結成された「西海市認知症ケア研究会」に所属している。毎月1回(第2水曜日)にケア研修等の勉強会を行い、発表や意見の交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃から利用者の方と接する機会を多くして、何気ない会話の中から、困っている事・不安な事を探り、又、話しやすい雰囲気作りを行い、良い信頼関係が生まれる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃より何でも話せる雰囲気作りを心掛けている。又、何気ない会話の中から、ご家族の本当の思いの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・ご家族の本当の思いを知った上で、十分な話し合いを行い、今一番必要な事を支援相談員を含め、全スタッフで見極めていける様、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全スタッフがさせて頂いているという思いを常に持ち、利用者の方に接する事で、気兼ねなく毎日を過ごして頂ける様努めながら、暮らしを共にする同士の良い関係作りにも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や他電話等で本人様のご様子をお伝えしていき、思いを共有出来る様、努めている。行事ごとにご家族に参加をお誘いしたり、いつでも気軽に本人様に会いに来られる様な雰囲気作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の知人の方も、よく面会に来て下さっている。ドライブの時は馴染みの場所にお連れする事で、偶然にご近所だった方ともお会いしてお話しもされており、馴染みの人や場所との関係が途切れない様、努めている。	島内の馴染みの店や理美容室、山崎医院に行くと、馴染みの方がおられ、楽しい会話が始まっている。自宅への送迎支援もしており、地元をドライブしていると地元の方々が海岸に夕涼みに出ておられ、炭坑時代の同級生との出会いもあり、楽しいひと時を過ごされている。絵手紙を家族に郵送しており、とても喜んで下さっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同郷の方が2組おられる。話し合ったりされ、お互いに支え合い、過ごされている。又、職員が間に入り、共通の話題となる様な事柄を提供し、利用者様同士の関係を支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院先が変わった時や、亡くなった事の連絡を下さったり、わざわざ法要のご挨拶に来て下さる等、関係は続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃、本人様やご家族の面会の折に話を伺ったりし、職員全員がカンファレンスや職員会議等で話し合い、その人らしい生活ができる様、努めている。	ご本人になったつもりで自己紹介する「インフォメーションシート」を毎月2~3名ずつ作成し、ご本人になりきる事でその方の目線に立ち、その思いや意向を考えるように努めてこられた。日頃の会話の中から真の思いを把握し、馴染みの方との出合いや家族との関係にも配慮し、ご本人らしい生活ができるような取り組みを続けている。	日々、ご本人の思いを知るようにしているが、本当に真意を推察する事ができているのか疑問に感じる時もあるとの事。穏やかに過ごされている方も多いが、今後も思いを汲み取る努力を続けると共に、小さな要望も記録に残していられる予定である。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	食後、お茶の時間等、利用者様のさりげない日常会話やご家族からの情報収集をもとに、サービス計画に取り入れ、経過観察・状態の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方をして頂き、その日の状態を観察・記録し、申し送り等で現在の状態を全職員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状況については、常に職員間で話し合っている。本人様やご家族との日常会話を通して希望を伺い、その思いを汲み取り、サービスの在り方について、職員間で話し合っている。必要に応じて、主治医の意見等、様々な情報をもとに、現状に即した介護計画に努めている。	ご本人と家族の意向を踏まえて計画を作成している。畑仕事や散歩、買い物、習字、絵手紙、魚釣りゲームなどの楽しみや役割も盛り込まれている。山崎先生からリハビリのアドバイスも頂いており、月1回の会議には、法人本部の施設次長に助言を頂いている。今後も、ご本人の要望を記録に残していく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入しており、気付いた事は職員間で情報を共有し、実践又はサービス会議の折等、介護計画の見直しに活かす様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で変化があった時等、ご家族・職員間で話し合い、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援サービスを行う様、努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今の所、積極的に行っているとは言い難い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・ご家族の希望されるかかりつけ医との関係作りに努め、連携を取りながら、適切な医療を受けられる様に支援している。	協力医院がホームに近く、急変時はすぐに往診して下さる。ご利用者全員、協力医がかかりつけ医であり、必要な医療機関への紹介状も書いて下さっている。通院介助は職員がしているが、家族が受診介助した場合も情報共有できている。主治医から「何かあったらいつでもいいよ」と言う言葉を頂き、職員の安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理は主治医に相談し、行っている。受診や往診の際、生活の様子や気づきを伝え、アドバイスを受けた時は職員間で申し送り共有し、適切な受診や看護が受けられる様、努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関しては、ご本人・家族様・主治医を交えた話し合いを行い、安心して治療出来る様に、又、入院中は病院関係者と情報交換や相談を密に行い、早期に退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、早い段階からご本人やご家族、主治医と何度も話し合い、全員で方針を共有し、医療機関と連携を取りながら、チームとしての支援に努めている。	看護師が勤務しておらず、ホームでの看取りは行わないと言う方針になっている。入居時に、協力医と連携しながら、医療が不要な時期までの支援を行う事を説明し、重度化が予測された場合は主治医から家族に説明し、ご本人の状況に応じた医療機関や介護施設の検討を重ねている。重度化を予防するために、栄養管理や生活リハビリなどに取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内において、利用者様の急変や事故発生時についての研修が実施されている。講義と実践にて全職員研修を受け、身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月第2水曜日に避難訓練を行っている。発生場所・時間を変えて行い、利用者様が避難出来る方法を、全職員で身に付けている。万が一の時は近隣の方々への協力をお願いしている。	火災時は全分団が出勤になる地域であり、23年11月は消防署・消防団合同(全分団)で大規模な火災避難訓練が行われた。消防署員は逃げ遅れの救出とトリアージを下され、消防団員は放水訓練、職員は通報・初期消火を行う等の役割を分担した。火災時は近隣の方にも協力を依頼し、非常用持ち出し袋も準備している。	今後は更に、震災や津波など、火災以外の災害を想定した訓練を行うと共に、役場の方や地域の方とも避難経路を含めたの情報収集を続けていく予定にしている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止委員会で作成された禁句集に従い、人権とプライバシーを損なわない声掛けに努めている。特に排泄の声掛け時、本人様だけに関わる様、お知らせ・誘導している。	「～でよろしいですか？」等の声かけを行い、常にご本人の意思を尊重するように努めている。排泄誘導等はご本人だけに聞こえるようにお声かけし、居室の出入りやダンスの開閉も、必ずご本人の了解を得ている。姓に「さん」付けでお呼びするように統一し、ご本人や家族、第三者が聞いても不快にならないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつの時でも声掛けを行い、必ず本人様へ説明し、希望を伺っている。あるいは仕草や表情から思いを読み取り、自己決定に基づいた生活の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビがお好きな方は、仲の良い利用者同士でテレビも見ながらお話をしてお過ごされている。散歩するのがお好きな方は、所内を歩かれたり、手先を動かすのがお好きな方は、色塗りをしたり、箱を折って過ごしている。お一人お一人がそれぞれのスタイルで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や小物類は殆どご家族が準備して下さるので、それらが一番似合っており、又、その日の服装は、本人様の希望を伺っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今日は何を食べたいか尋ねたり、下準備や味見・下膳等、出来る事は職員と一緒にして頂いている。職員も同じテーブルで食事を摂り、一人一人の状態を把握し、会話しながら楽しく食事が摂れる様、対応している。	家族や職員が作られた野菜も使い、美味しい料理が作られている。オープンキッチンでは、ご利用者の方から「手伝おうか」と言って下さり、米とぎや下ごしらえ等もして下さる。皆さんの大好物である郷土料理の“つきあげ”等も楽しまれ、ポン酢などの調味料も選んで頂いている。テーブルには花を飾り、職員との会話を楽しませている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事ごとに個人記録に残し、把握出来ている。入浴後にも水分補給を促している。希望によって自室に白湯を入れたペットボトルを置き、いつでも飲める様にしている。あるいは水分補給をあまり好まない方へは、果物やゼリー等で確保出来る様、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後促している。自力で困難な方は、介助にて清潔を保っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しながら、その人に合った誘導・促しを行う様、努めている。尿意がない方もその人のタイミングを計り、誘導し、トイレでの排泄を心掛け、支援している。	個別の排泄記録を残しており、下着を着用し、自立している方もおられる。失敗時も、ご本人の羞恥心に配慮して素早く片付けし、“申し訳ない”と言う気持ちがある方には、“排泄のお手伝いをさせて頂き、ありがとうございます”と言う言葉かけをしている。心身状況に応じて、夜のポータル位置も検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分補給や食物繊維の多いメニューを心掛けている。さつまいも・ごぼう・バナナ・ヨーグルト等、食事やおやつに取り入れている。又、主治医と連携し、服薬の調整行う。便秘の原因や及ぼす影響についても、十分理解している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を希望される方には、毎日でも入って頂いている。入浴を拒む方には、声掛けや介助の職員を変えたり、時間帯を変えたり工夫している。あるいは声掛けも日にちを空けたりしている。入浴を好む方、そうでない方、その方々に合ったタイミングで入浴して頂ける様、努めている。	入居前の入浴習慣を把握している。入浴好きな方が多く、入浴前に着替えを選んで頂き、湯温や順番なども個別に伺っている。失禁時はシャワーを行い、浴槽の出入り時以外はドアの外で待機する方もおられる。入浴中は家族の事を話して下さり、一緒に歌を唄い、季節に応じて菖蒲湯や柚子湯も楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマ着用については、それまでの生活習慣を尊重し、様々である。夜、自室ベッドでは眠れない方へ職員が近くにいる事で、安心して眠れる様、リビングソファーを利用して頂いた。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも見れる場所に保管し、変更の際は個人記録・カンファレンスノートで確実に伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・接客・掃除・話し相手、様々な役割を持って頂いている。外気浴やレクで体を動かす等して、気分転換を図っている。又、おやつ時は好みの物を選んで頂ける様、飲み物やおやつをいくつか用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブ・散歩・買物等を取り入れている。玄関先での外気浴を皆さんで楽しむ事もあ。行事を通じて、他の利用者様やご家族と一緒に掛ける機会を作っている。又、ご家族の協力で、普段は行けない所へ連れて行かれる場合もある。	お弁当を作り、季節に応じた花見(桜・紫陽花・秋桜など)にも行かれ、「綺麗かね」と喜んで下さっている。車も少なく、近くの海を眺めながら日々の散歩もされており、近くの商店や大島のスーパーに食材やお菓子の買い物に出かけている。海を眺めながら長崎の本部までのドライブも生まれ、家族と一緒に知人の方が暮らす施設や家族が入院する病院に行かれる方もおられる。	以前行われていた“買い物ツアー”などにも取り組んでいきたいと考えられている。ご利用者の心身状況が様々であるが、その方に合った外出をもっと増やしていく予定にしている。



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がご家族へお任せしていたり、金銭管理が困難であり、ご家族希望にて所持していない方が殆どである。ご家族に相談し、しおさいの金庫に保管されている方もおり、出納帳を作り、時々本人様と確認し、安心されている。利用者様が買いたい物がある時は、その都度ご家族に相談し、立替金として購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が自ら番号を押し、掛ける事は困難だが、いつでも電話が出来る様にしている。利用者様から申し出がなくても、時々こちらからご家族様へ電話をし、本人様と代わったり、ご家族から電話があった際にも、出来るだけ本人様に代わり、会話出来る様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは全体的に明るく、利用者様・職員の会話も穏やかで、外からの騒音もなく、生活音が心地良い雰囲気である。季節の花を飾ったり、絵手紙を展示している。	リビングは日当たりが良く、夏場はグリーンカーテンを使用し陽射しを和らげている。臭いゼロ作戦に取り組み、換気の徹底などにも努めている。壁面飾りを毎月変えており、「これを見るのが楽しみ」と家族の方も言って下さっている。畳の間では皆さんで洗濯物をたたまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や窓辺にはソファーや椅子を置き、いつでもどこでも座れる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様にも相談し、協力してもらい、以前使用していた家具や置物等を持ち込んで頂いている。布団も使い慣れたものであり、好みでテレビを自室に設置している方もおられる。	畳の間・洋室を入居時に選んで頂いている。ご本人と家族と相談し、使い慣れた品を持って来て頂いている。ベッド以外、タンスやテレビ等を持ち込まれ、その方の絵手紙の作品やお孫さんが描いた絵、家族との写真も飾られている。レイアウトなどは家族の方も一緒にして下さり、自宅と同じような雰囲気になるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室・洗面所等に、ご利用者様の使い勝手を考慮した手すりの設置と、それぞれの場所を示す貼り紙をして案内している。利用者様によっては室内にも手すりがあり、自立や安全に繋がる配慮を行っている。		

事業所名: グループホームしおさい

作成日: 平成 25 年 2 月 15 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	ご家族への伝達を確実に行う事が出来る。	伝達漏れがない様にしたい。	伝達内容が見やすい書式を検討し、活用する。	6 ヶ月
2	23	その方の本当の思いに近づく。	一人一人の思いを汲み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントを活用する方法を検討する。</li> <li>・日頃の会話や様子から伺えた事柄を記録する。</li> <li>・定期的に振り返りを行う。</li> </ul>	12 ヶ月
3	49	外出を楽しんで頂きたい。	外出の支援が出来る様になる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月の予定に入れる。</li> <li>・買物ツアーを計画、実施する。</li> <li>・ご家族へ相談、協力をお願いする。</li> </ul>	12 ヶ月
4	2	地域の方との付き合いを深める。	地域へ出掛ける事は出来ているので、地域の方にしおさいへ来て頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア団体や学校へ働き掛ける。</li> <li>・運営推進会議を通して、地域の団体へ呼び掛ける。</li> </ul>	24 ヶ月
5	4	マンネリ化した会議を有意義な時間にする。	外部からの意見を運営に反映させたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の先生、消防団等へ会議の参加をお願いする。</li> <li>・地域包括の方や協力医をゲストにした勉強会を企画する。</li> <li>・欠席者やご家族へ議事録を渡し、意見を頂く。</li> </ul>	24 ヶ月

優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
6	35	火災以外の災害に対応出来る。	火災以外の災害訓練を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の避難所、避難経路を確認し、避難の仕方を話し合う。</li> <li>・災害時の避難訓練を計画し、実施する。</li> </ul>	12 ヶ月
7					ヶ月
8					ヶ月
9					ヶ月
10					ヶ月
11					ヶ月